

《担当者名》講師 / 井上 貴翔 (看護福祉学部)

【概要】

日本で発表された小説を中心に様々な表象を取り上げ、それらを多角的に読解することを通じて、小説に限らない様々な事象を多角的に捉える視点を身につけることを目指す。また、表象を取り巻く現況を踏まえつつ、それぞれの表象と社会とがいかなる関係を結んでいるのかについても学ぶ。

【学修目標】

- .小説をはじめとした様々な表象を、多角的に読解する視点を身につける。
- a. 表象の細部や表現なども踏まえて、表象を新たな視点で説明、解釈する。
- .小説をはじめとした様々な表象を取り巻く社会・文化的状況を踏まえ、表象と社会との関係を考察する。
- a. 作品テーマや個別の表象を個別の社会・文化的状況と対照させ、そこに存在する相互作用や差異について説明・解釈する。
- .上記の視点を、自分自身を取り巻く様々な事象に応用し、自身の考えや思想を創造する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ガイダンス	講義の進め方、到達目標、評価方法について、概説できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 A-(3)- -1~3 《薬学準備教育ガイドライン》 (1)-3,4	井上 貴翔
2	探偵小説の歴史	探偵小説の歴史について、概説できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 A-(3)- -1~3 《薬学準備教育ガイドライン》 (1)-3,4	井上 貴翔
3	文学研究の基本	文学をはじめとした表象の分析・考察について、説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 A-(3)- -1~3 《薬学準備教育ガイドライン》 (1)-3,4	井上 貴翔
4	探偵小説と テクノロジー	探偵小説と テクノロジー の関係について、説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 A-(3)- -1~3 《薬学準備教育ガイドライン》 (1)-3,4	井上 貴翔
5	探偵小説と 科学的捜査法	探偵小説と 科学的捜査法 の関係について、説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 A-(3)- -1~3 《薬学準備教育ガイドライン》 (1)-3,4	井上 貴翔
6	探偵小説と 民主主義	探偵小説と 民主主義 の関係について、説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》	井上 貴翔

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		A-(3)- -1~3 《薬学準備教育ガイドライン》 (1)-3,4	
7	探偵小説と 交通	探偵小説と 交通 の関係について、説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 A-(3)- -1~3 《薬学準備教育ガイドライン》 (1)-3,4	井上 貴翔
8	期末レポート課題について	期末レポート課題とその評価基準について、説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 A-(3)- -1~3 《薬学準備教育ガイドライン》 (1)-3,4	井上 貴翔
9	探偵小説と 多様性	探偵小説と 多様性 の関係について、説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 A-(3)- -1~3 《薬学準備教育ガイドライン》 (1)-3,4	井上 貴翔
10	探偵小説と 多文化主義	探偵小説と 多文化主義 の関係について、説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 A-(3)- -1~3 《薬学準備教育ガイドライン》 (1)-3,4	井上 貴翔
11	探偵小説と ジェンダー	探偵小説と ジェンダー の関係について、説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 A-(3)- -1~3 《薬学準備教育ガイドライン》 (1)-3,4	井上 貴翔
12	探偵小説と 「新自由主義」的価値観	探偵小説と 「新自由主義」的価値観 の関係について、説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 A-(3)- -1~3 《薬学準備教育ガイドライン》 (1)-3,4	井上 貴翔
13	探偵小説と 空気	探偵小説と 空気 の関係について、説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 A-(3)- -1~3 《薬学準備教育ガイドライン》 (1)-3,4	井上 貴翔
14	探偵小説と 推理	探偵小説と 推理 の関係について、説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 A-(3)- -1~3 《薬学準備教育ガイドライン》 (1)-3,4	井上 貴翔
15	総まとめ	講義全体を通しての狙いや目的について、概説でき	井上 貴翔

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		<p>る。</p> <p>《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 A-(3)- -1~3 《薬学準備教育ガイドライン》 (1)-3,4</p>	

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による。

【評価方法】

期末レポートによる学修到達度70%、講義で課した課題もしくはコメントシートによる学修到達度30%。なお、後者については各回の講義内もしくは個別に回答やコメントを付す。

【教科書】

毎回、講義時に配布するプリントを用いる。

【参考書】

必要に応じ、講義内で紹介する。

【学修の準備】

次回講義時に扱う作品について配布ないし告知する場合があるので、次回講義までに観賞しておくこと。配布しない作品については必ずしもその限りではないが、講義内容をより理解するためにも観賞することを推奨する（予習：80分）。また講義各回の復習も兼ねて、講義で扱っていない作品や表象を自分なりに読解することを試みる（復習：80分）。

【関連するモデルコアカリキュラムの到達目標】

A(3) 信頼関係の構築

【 コミュニケーション】

【薬学準備教育ガイドライン】

(1) 人と文化

【薬学部ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

1. 医療人として求められる高い倫理観を持ち、法令を理解し、他者を思いやる豊かな人間性を有する。